

# 下阪本小学校創立 150 周年記念事業 **大成功** 子どもたち笑顔いっぱい

10月26日の9時より、下阪本小学校創立150周年記念事業が盛大に開催されました。体育館では創立150周年記念コンサートや各種コンテスト・児童会クイズ、そして児童昇降口では下阪本小学校の沿革がわかるパネル展や坂本城のジオラマ等が展示されました。午後から地域主催の「秋まつり」も開催され、どの子どもも笑顔にあふれ、きっと子どもたちの心に残る1日になったことでしょう。それでは、一つ一つの催しに目を向けてみましょう。

1

## 創立 150 周年記念コンサート大いに盛り上がる

滋賀県出身の姉妹ゆり・めりさんをお迎えし、創立150周年記念コンサートを開催。事前に子どもたちが書いた詩や作文をゆり・めりさんに送り、それを基に創立150周年記念ソング「笑って！」を制作していただきました。



当日、記念コンサート(第1部:1年生から4年生、第2部:5・6年生と保護者・地域住民)は2部構成で開催され、ゆり・めりさんのオリジナル曲をはじめ、子どもたちがリクエストしたカバー曲を歌っていただきました。コンサートの最後に、子どもたち・保護者・地域の皆さんと一緒に150周年記念ソング「笑って！」を歌い、大いに会場は盛り上がりました。ゆり・めりさん、すばらしいコンサートを演出していただき、ありがとうございました。



2

## 各種コンテストに多くの子どもが応募 児童会クイズを開催



創立150周年記念事業を盛り上げるために、「地域のお気に入りの場所コンテスト」、「学校のお気に入り場所コンテスト」、「デザイン漢字一文字コンテスト」が実施され、多くの子どもたちの応募があったと聞いています。当日、その作品が体育館に展示され、どの作品も力作ばかりでした。午後、地域の「秋まつり」でその表彰式が実施されました。

また、当日児童会の子どもたちが大活躍、クイズ形式で下阪本小学校の歴史を紹介されました。何と、その方法はズームを使って、校長室から生中継なんですね。そして、各教室の様子やクイズの正解等、瞬時に読み取れるそうです。今の教育はすごいですね、進んでいますね。ただただびっくり。

4

## 下阪本小学校の沿革やなつかしい思い出を紹介

地域チームは下阪本小学校の沿革や下阪本のなつかしい思い出をパネル展等にて紹介しました。会場には沢山の方がご来場下さり、ありし日のなつかしい下阪本を思い出しながら、感慨深く熱心に鑑賞して下さっていました。また、当時の思い出を係員に熱っぽく説明して下さったり、自説を述べて下さる方もおられました。ほとんどの見学者は、写真の修復力・補正力の高さや出来映え、そしてジオラマのすばらしさに感動されていたようです。



3

## 子どもたち段ボールを使った 迷路体験に大はしゃぎ

創立150周年記念事業と併せて秋まつりが実施されました。そこで、PTAチームは多くの子どもたち楽しんでほしいと考え、段ボールを使った巨大迷路体験を企画されました。巨大段ボール迷路は高さ210cmもあり、見たことがない大きさに子どもたちはびっくりしたようですが、興味津々にワクワクドキドキ。迷路体験には、650名ほどの児童の参加があり、そのブースは終始賑わっていました。そして、どの子どもも笑顔いっぱいでした。

子どもたちのために一肌脱いで下さった叡浜クラブをはじめ、ご支援下さった皆さま、すばらしいプレゼントありがとうございました。



## 1. 下阪本小学校の沿革がわかる展示

明治6年(1873)2月3日、東南寺にて「さざなみ小学校」として開設。明治10年9月22日、「さざなみ小学校」を南大道城畔(現在の農協)に新築移転。明治42年(1909)11月21日、「下阪本小学校」を現在の校地に木造校舎を新築移転。このように、下阪本小学校150年の歴史を調べあげ、一枚のパネルにまとめました。その沿革史に、【写真2】新築工事(木造校舎)の様子、【写真4】新校舎で最初に行われた卒業式後の記念写真、【写真7】講堂が新築されている様子、【写真14】航空写真等を挿入。それら14枚の写真を展示しました。



## 2. なつかしい江若鉄道展



大正10年(1921)、江若鉄道は最初に三井寺下駅から、叡山駅まで開通しました。この年、延暦寺では『伝教大師生誕1100年大御遠忌法要』が3月16日から4月4日まで開催されました。江若鉄道はその大御遠忌法要に合わせて、3月15日に営業を開始されたそうです。その後、浜大津駅から近江今津駅まで全線が完成するには10年かかり、総延長約51kmの線路が完成しました。普段は2両編成ですが、夏の水泳や冬のスキーシーズンには3両編成または4両編成に増結されることもあり、そのとき、一部の駅では車両がホームの長さを超えてしまうので、乗客ははしごを使って乗り降りしていたそうです。のんびりした時代だったんですね。昭和44年(1969)10月に廃線となりましたが、湖西線が開通するまで地域の交通手段として48年間、湖西を走り続けました。

ところで、叡山駅は現大津製粉の西側にあり、大正10年3月15日に駅舎が完成しました。叡山駅は旅客数も多く、貨物輸送量も突出していたようです。大津製粉工場に小麦の輸送、カネカ坂本工場には石炭の輸送、そして両社川河口に坂本港(現マグドナルド下阪本店)があり、そこで下ろされた荷が運ばれていたそうです。このように叡山駅は旅客の輸送だけでなく、貨物駅としての役割も果たしていたそうです。

一方、日吉駅(現JR比叡山坂本駅)は大正12年4月1日に叡山駅と雄琴駅間の開業とともに使用が開始されました。日吉駅は比叡山や坂本を訪れる観光客の玄関口として重要な役割を果たしてきました。江若鉄道の変遷・叡山駅や日吉駅の様子をパネルで説明し、それらの様子がわかる写真を展示しました。

ちなみに昭和2年(1927)に坂本と比叡山の山頂を結ぶケーブルカーが開通し、京阪電気鉄道の坂本駅(現坂本比叡山基口駅)も同じ年に開通しました。

## 3. 「幻の城」坂本城がわかる展示

下阪本は延暦寺の門前町として政治的・経済的な役割を担う街として栄え、激動の時代を見届けてきた街でもあります。いわば、下阪本は歴史の宝庫で、今でもその証しや縁起が数多く眠っています。

令和6年2月7日、織田信長の安土城に次ぐ豪華絢爛な城と文献で紹介されていた「幻の名城」がついに姿を現しました。「湖から西に約300mの住宅開発から、全長約30m、高さ1.5mに及ぶ石垣が出土」と、大津市が発表しました。

この歴史的な発見を皆さまに伝えるべく、坂本城のイメージ画並びに坂本城のジオラマを展示しました。また、「坂本城の石垣」が発見されたとき、京津測量の柴崎社長がドローンを飛ばし、その様子を撮影して下さいました。それにナレーションを入れて当日放映しました。

来年の10月に近畿市町村教育長会議が大津市で開催されます。大津市の教育長より、「その会場に坂本城の歴史的な発見に関わるコーナーを設けたい」という申し出がありました。誠にありがたいことでもあります。

